国立国会図書館月報

NATIONAL DIET LIBRARY MONTHLY BULLETIN 2021.12

憲政資料室の新規公開資料から

日本図書館紀行　大阪府立中央図書館

国立国会図書館で働いてます　Season2

728号　2021年12月

国立国会図書館月報

NO. 728
DECEMBER 2021

CONTENTS

1 戦争中の日本人へのメッセージ
—連合国軍の対日心理戦—
今月の一冊　国立国会図書館の蔵書から
6 憲政資料室の新規公開資料から
15 日本図書館紀行　大阪府立中央図書館
20 国立国会図書館で働いてます　Season2　no.3
14 館内スコープ
近づいたり離れたり
23 本屋にない本
『LOVE and...』
24 NDL Topics
25 年間索引

表紙：「サンタクロース」武井武雄 画
『コドモノクニ』11 巻 14 号　1932.12
26 × 38cm
<請求記号 Z 32- B 158>

今月の一冊　国立国会図書館の蔵書から

戦争中の日本人へのメッセージ
―連合国軍の対日心理戦―

冨田圭一郎

（右上から）連合国の日本上陸が間近に迫っていることをを示すビラ。
援軍が来る見込みはないので抗戦しても無駄であると諭すビラ。
投降すれば良い待遇が待っているとアピールするビラ。

Basic Military Plan for Psychological Warfare in the Southwest Pacific Area
Psychological Warfare Branch, OMS, GHQ　[1945]　1v. : 44 cm
https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11670422

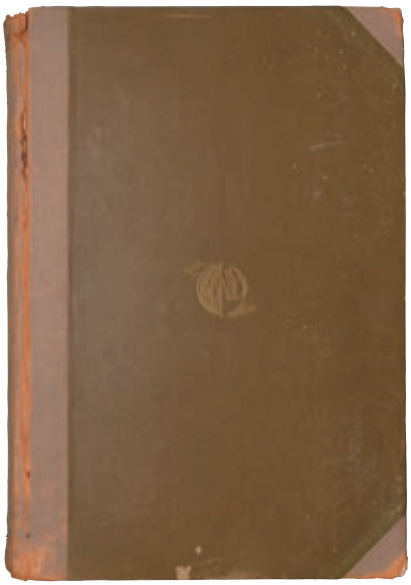
「時は迫れり‼」
「日海空軍は何処へ行つたのだらうか」
「昨日の敵は今日の友」

これらは、今から80年近く前、第二次世界大戦の末期に、連合国軍が日本の軍人や一般人向けに撒いたビラ（伝単）です。あの手この手で日本の敗北が必至であることを伝えて、戦意を喪失させ、投降を促している印象を受けます。

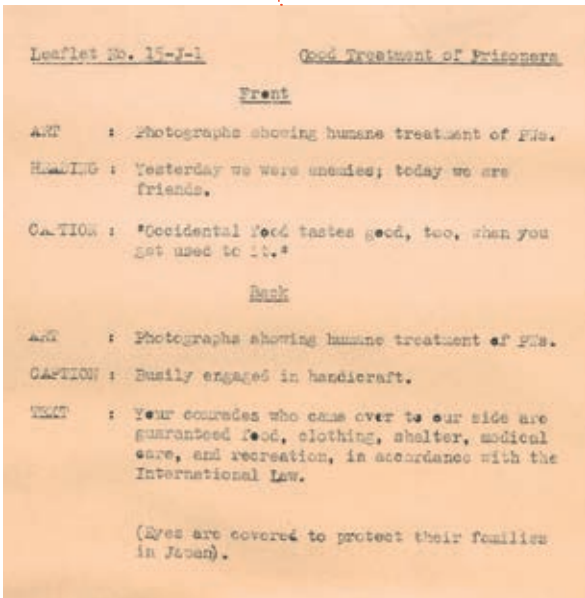
今回ご紹介するのは、このようなビラや新聞を貼り付けたスクラップブックです。約70種類のビラと、『落下傘ニュース』という新聞の一部の号が含まれています。ビラを作成した部署であるＰＷＢ（後述）の刻印や印刷があり、また、各ビラには英語の解説（ビラの識別番号、対象者、英訳など）が付いているので、記録又は記念のために作られたものだと思われます。この資料は、研究者の方がかつてアメリカに留学した際に入手したもので、最近、当館の憲政資料室にご寄贈いただきました。[1] 国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧できます。

アメリカを中心とする連合国軍は、1944年6月頃に南西太平洋地域総司令部（GHQ／SWPA）に心理戦部門（PWB, Psychological Warfare Branch）を設け、この戦域での日本に対する心理戦に力を入れ始め

FOREWORD
TO
BASIC MILITARY PLAN FOR PSYCHOLOGICAL WARFARE IN THE SOUTHWEST PACIFIC AREA



右から、スクラップブック表紙、フェラーズの序文、冒頭ページで紹介したビラ「昨日の敵は今日の友」（裏面）を貼ったページ。



Leaflet No. 15-J-1 Good Treatment of Prisoners

Front

ART : Photographs showing humane treatment of POWs.

HEADING : Yesterday we were enemies; today we are friends.

CAPTION : "Occidental food tastes good, too, when you get used to it."

Back

ART : Photographs showing humane treatment of POWs.

CAPTION : Busily engaged in handicraft.

TEXT : Your comrades who came over to our side are guaranteed food, clothing, shelter, medical care, and recreation, in accordance with the International Law.

(Eyes are covered to protect their families in Japan).

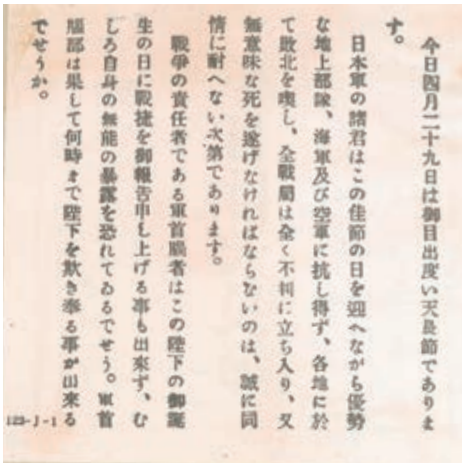
各ビラには、このような解説も付いている。

ます。心理戦のツールの一つとして、ビラや新聞を作成し、日本本土を含めて各地に撒布しました。フィリピンや台湾の人向けのものもあります。ビラは、日系二世、在外日本人、日本在住経験者など、日本語と英語の双方をよく理解している人が中心となって、日本人捕虜の協力も得ながら作成されました。なお、南西太平洋地域の司令官は、後に連合国最高司令官として日本にやって来るマッカーサー（Douglas McArthur）です。

スクラップブックには、心理戦で中心的な役割を果たし、マッカーサーの軍事秘書官を務めたフェラーズ（Bonner F. Fellers）による序文があり（上画像）、次のように記されています[2]（意訳）。

> 敵の軍人や一般人ひとりひとりの考え方が、戦争の戦い方や期間を左右する。心理戦とは、人々の行動を分析、予測し、その行動に影響を与える科学を軍事に適用したもので、ゲリラ戦、通常の戦闘、物理的破壊以外のすべての活動である。心理戦を適切に行って、東洋人に西洋の寛容と自由主義、利己的でない戦争目的を理解してもらうことにより、将来の人種間戦争を避け、西洋諸国の進軍に対する好意的な反応が得られる。

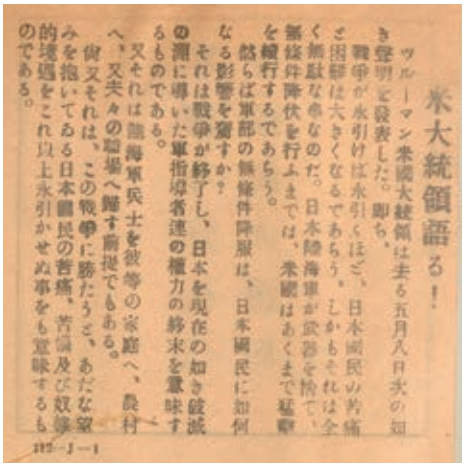
今日は天長節


今日四月二十九日は御目出度い天長節であります。

日本軍の諸君はこの佳節の日を迎へながら優勢な地上部隊、海軍及び空軍に抗し得ず、各地に於て敗北を喫し、全戦局は全く不利に立ち入り、又無意味な死を遂げなければならないのは、誠に同情に耐へない次第であります。

戦争の責任者である軍首脳者はこの陛下の御誕生の日に戦捷を御報告申し上げる事も出来ず、むしろ自身の無能の暴露を恐れてゐるでせう。軍首脳部は果して何時まで陛下を欺き奉る事が出来るでせうか。

軍部の降伏は
全國民の勝利


米大統領語る！

ツルーマン米國大統領は去る五月八日次の如き聲明を發表した。即ち、

戦争が永引けば永引くほど、日本國民の苦痛と困難は大きくなるであらう。しかもそれは全く無駄なものなのだ。日本陸海軍が武器を捨て無條件降伏を行ふまでは、米國はあくまで猛撃を續行するであらう。

然らば軍部の無條件降服は、日本國民に如何なる影響を齎すか？

それは戦争が終了し、日本を現在の如き破滅の淵に導いた軍指導者達の權力の終末を意味するものである。

又それは陸海軍兵士を彼等の家庭へ、農村へ、又夫々の職場へ歸す前提でもある。

尚又それは、この戦争に勝たうと、あだな望みを抱いてゐる日本國民の苦痛、苦悩及び奴隷的境遇をこれ以上永引かせぬ事をも意味するものである。

（上2枚）天皇に言及した数少ないビラ。軍指導者が無能で陛下を欺いているという文脈で、間接的に触れている。

（下2枚）軍部の無条件降伏こそが日本国民にとって最善の道であるという、トルーマン米大統領の声明を紹介したビラ。

首相や軍高官の発言を紹介したビラ。裏面では、首脳部の人達は諸君の苦労も顧みず相変わらず大きなことを吹聴している、と解説している。

この序文は、心理戦の計画文書（1945年4月）の序文とほぼ同じ内容です。計画の本文を見てみると、日本人の心理や行動を分析したうえで、日本に対する心理戦の目的を3つ挙げています。

①日本の敗北を確信させて軍人や一般人の士気を低下させること。

②軍部（軍指導者）が無能で嘘をついていることを示して彼らに破滅的な戦争の責任を問うこと。

③人々が平和を求め軍部を打倒し、アメリカの慈悲に身を投じるよう促すこと。[3]

改めてビラを見ると、確かにこの方針に沿っ

人々が平和を求め軍部を打倒し、戦後の再建に携わるよう促すビラ。戦火が止んだ後の生活をイメージした絵が描かれている。

ており、一般的に思い浮かぶ①だけでなく、②や③のビラも多いことに気づきます。

このような心理戦の目的を果たすうえで、ビラや新聞は効果があったのでしょうか。米軍がまとめた資料によれば、1944年10月から1945年6月まで、日本語のビラを投下した枚数と捕虜の数が、ともに増えています。両者の正確な因果関係はわかりませんが、ビラは投降者を増やした一因であった（①にある程度貢献した）可能性はあるでしょう。[4] ただし、1944年後半から1945年8月までの時期は、戦争で亡くなった人の数も急増しています。[5]

一方、②と③や、西洋の考え方を理解させて西洋の進軍に対する好意的な反応を得ることは、むしろ戦後に極東国際軍事裁判や占領統治によって実行されました。この意味で、連合国が戦争中にビラや新聞で伝えたメッセージは、戦後の占領期にも引き継がれていたと言えるでしょう。

読者の皆様は、ここでご紹介したビラをどこかで目にしたことがあるかもしれませんが、背後にある計画や関連資料とあわせて見ると、それぞれの視点から新たな気づきが得られるのではないでしょうか。

1945年8月11日付「落下傘ニュース」の表裏。ソ連参戦や長崎への原爆投下などを報じている。

1 ご寄贈いただいた資料は、土持ゲーリー法一氏（現・京都情報大学院大学副学長）が、アメリカ留学中に、連合国最高司令官総司令部（GHQ/SCAP）の一部局である民間情報教育局（CIE, Civil Information and Education Section）の教育課長を務めたMark Taylor Orr氏から譲り受けたものです。なお、CIEはPWBの後身の組織です。

2 フェラーズの対日心理戦や日本占領時における活動については、下記をご覧ください。
東野真 著『昭和天皇 二つの「独白録」』日本放送出版協会　1998<請求記号 GK132-G47>

3 Basic Military Plan for Psychological Warfare against Japan, Manila, 7-8 May 1945. Report No. 11-a(15), USSBS Index Section 6, 1945.5, pp.5, 12-13. https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/4009797

4 1944年10月20日～12月1日と1945年6月2日～6月30日の数字を比較すると、ビラ投下数は約1,582万枚で約136倍に、捕虜数は4,175人で約45倍になっています。
Psychological Warfare Reactions and Developments, Collation Section, Psychological Warfare Branch, OMS, GHQ, AFPAC, Report No.13, 1945.7, p.1. <請求記号 MMA-23(リール4) >(マッカーサー記念館所蔵　ボナ・フェラーズ文書）https://rnavi.ndl.go.jp/kensei/entry/MMA-23.php
また、沖縄戦の終盤では、投降勧告ビラを持って投降する部隊が増えたとのことです。
土屋礼子 著『対日宣伝ビラが語る太平洋戦争』吉川弘文館　2011　p.205 <請求記号 GB531-J199>

5 アジア・太平洋戦争(1941年12月～1945年8月)における日本の戦没者(軍人と民間人の合計）のうち、1944年以降の戦没者が約9割を占めているとの見方があります。米軍では、太平洋戦争での死者のうち、1944年7月以降の死者が約53%を占めているとのことです。
吉田裕 著『日本軍兵士　アジア・太平洋戦争の現実』中央公論新社 2017　pp.19-26<請求記号 GB531-L399>
ジョン・W. ダワー 著、猿谷要 監修、斎藤元一 訳『容赦なき戦争　太平洋戦争における人種差別』平凡社　2001　p.492<請求記号 GH113-G11>

○戦争中のビラや新聞に関する主な資料・情報
一ノ瀬俊也 著『戦場に舞ったビラ　伝単で読み直す太平洋戦争』講談社 2007<請求記号 GB531-H318>
一ノ瀬俊也 著『宣伝謀略ビラで読む、日中・太平洋戦争　空を舞う紙の爆弾「伝単」図録』柏書房　2008<請求記号 GB531-J33>
土屋礼子 著『対日宣伝ビラが語る太平洋戦争』吉川弘文館　2011<請求記号 GB531-J199>
『落下傘ニュース　復刻版』（1945.3.13～8.25）<請求記号 Z99-1021>
国立国会図書館電子展示会「史料にみる日本の近代」（「米軍投下ビラ」あり）https://www.ndl.go.jp/modern/cha4/description21.html
『開港のひろば　横浜開港資料館館報』89号　2005.8.3. http://www.kaikou.city.yokohama.jp/journal/089/089_02.html
Commander-in-Chief. Leaflet File No. 2, Bonner Frank Fellers papers, Hoover Institution Library & Archives https://n2t.net/ark:/54723/h3tg8q
World War II - American Propaganda in Japan, United States Naval Academy Nimitz Library Digital Collections https://cdm16099.contentdm.oclc.org/digital/collection/p16099coll2
WWII ANTI-JAPAN PROPAGANDA, Pacific University Digital Exhibits https://heritage.lib.pacificu.edu/s/world-war-ii-propaganda/page/welcome
※引用の旧字体は新字体に改めました。
※URLの最終アクセス日：2021年10月28日

憲政資料室の新規公開資料から

国立国会図書館は、幕末・維新期から現代までの政治家、官僚、軍人らが所有していた個人文書（憲政資料約四二万点）を所蔵しています。このたび東京本館憲政資料室で新規に公開した資料をご紹介します。

憲政資料は主にご子孫などからの寄贈によって収集した資料から構成されており、整理や目録作成を行った上で一般に公開します。この記事により、政治史をはじめ様々な分野の調査・研究を支える貴重なコレクションの魅力の一端を味わっていただければ幸いです。

憲政資料室のご案内（東京本館　本館4階）

幕末・維新期から現代にいたる政治家・官僚・軍人などが所蔵していた文書類を集めた「憲政資料」、第二次世界大戦終了後の連合国による日本占領に関する米国の公文書を中心に集めた「日本占領関係資料」、主に北米・南米への日本人移民に関する資料を集めた「日系移民関係資料」を扱っています。

憲政資料室の利用方法、今回紹介する資料を含む所蔵資料の概要については、リサーチ・ナビ「憲政資料室の所蔵資料」（https://rnavi.ndl.go.jp/kensei/）をご覧ください。

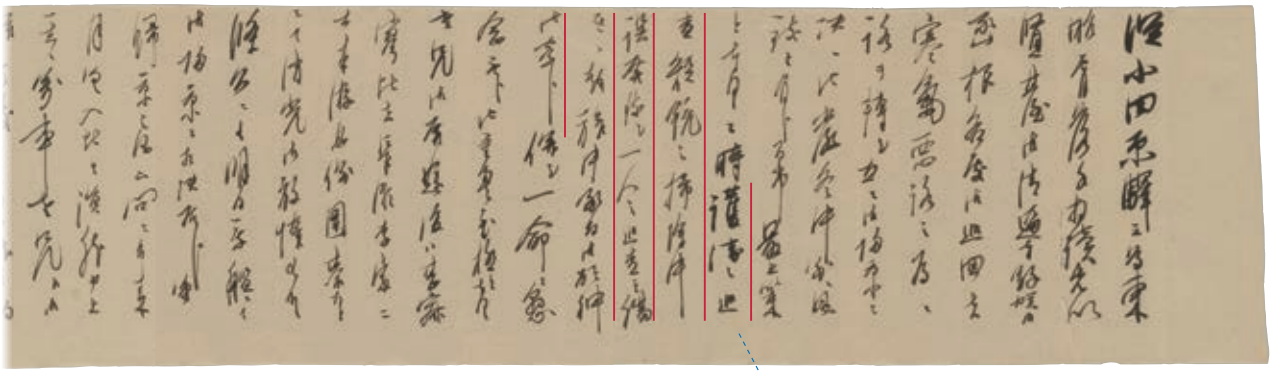
憲政資料室

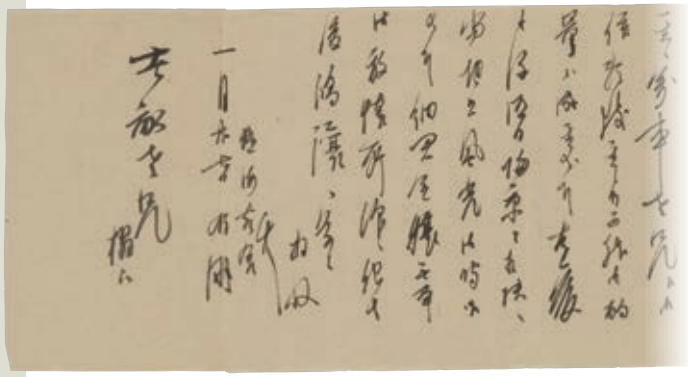
山縣有朋（やまがたありとも）関係文書（寄託）

（二点　令和三年二月公開）

憲政資料室には、以前より山縣家から寄託され、公開してきた山縣宛書簡群が存在しますが、ここに紹介する伊藤博文宛の書簡は、今回同家から新たに発見されたもののうちの一つです。この書簡が明治一三（一八八〇）年のものと推定される根拠になったのは、「護衛之巡査短銃之掃除中誤発致シ、一人之巡査之傷き候趣、旅中別而御配神御察申候」の一節です。この出来事を直接示す史料は見当たりませんが、同年一月三一日付『読売新聞』には、一月二六日に伊藤のお供をしていた巡査が箱根山中で「誰とも知らず打出した猟銃の外玉（それだま）」で負傷したとの記述があり、おそらくこの出来事を指していると思われます。

ここで興味深いのは、掃除中の誤発が、あたかも伊藤を狙った発砲であるかのように報じられていることです。明治一三年といえば、いまだ西南戦争の余燼なお消えやらぬ時期であり、一方で前年一一月に開催された第三回愛国社大会では、全国から国会開設請願の署名を集めることが決定されたように、民権派の動きが急速に高まる時期でもありました。このように世の中は騒然としており、この状態は翌年の明治一四年政変まで続きます。誤報とはいえ、これも世情を反映しているようです。





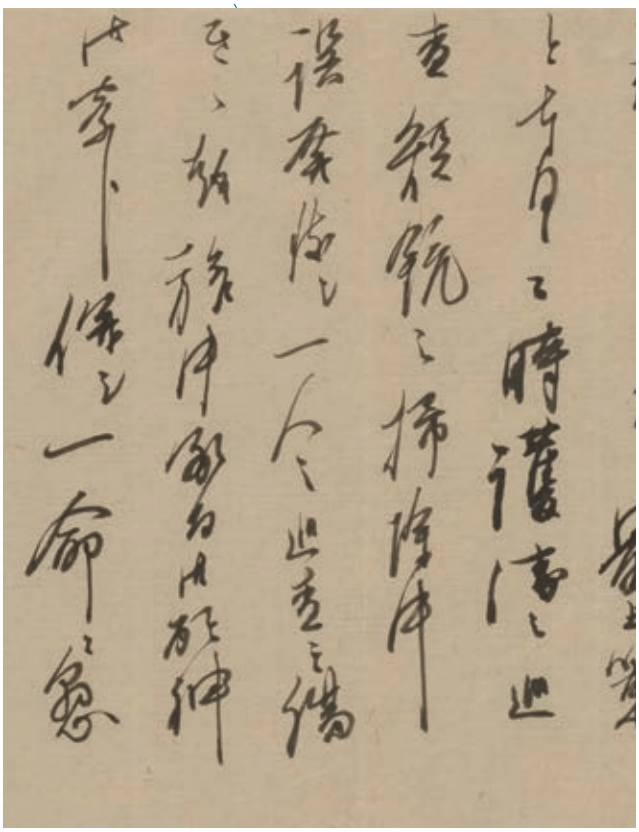
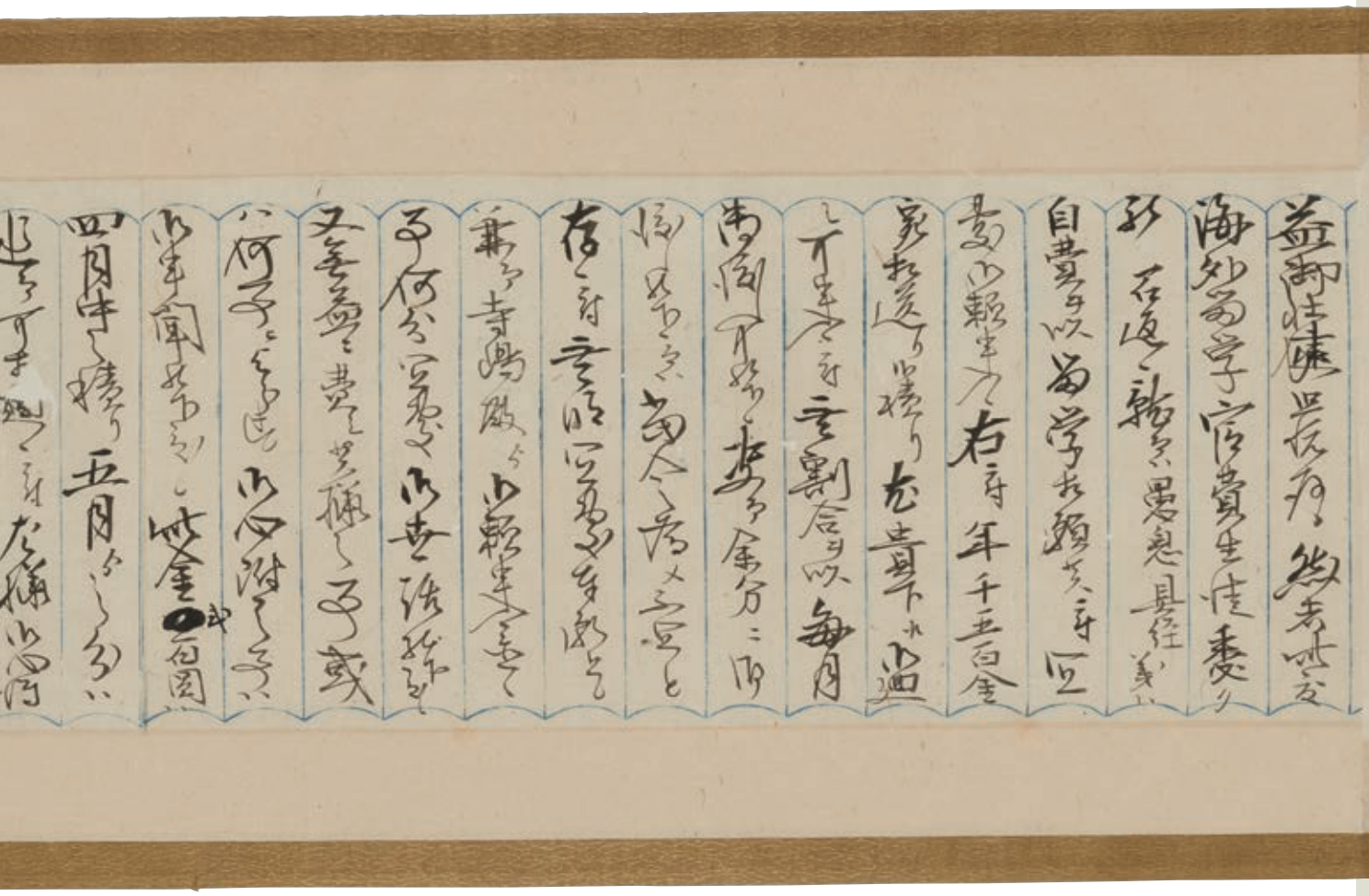


写真1　山縣有朋書簡　伊藤博文宛　<山縣有朋関係文書（寄託）179>
※赤線は本文引用部分。

山縣有朋（1838-1922）

天保9(1838)年、長州藩下級武士の家に生まれる。松下村塾に学び、奇兵隊では軍監として戊辰戦争で活躍。明治期には創設者として陸軍に君臨するのみならず、内務大臣・総理大臣に就任したことから官界・貴族院にも強い影響力を持った。その人脈は山縣閥と呼ばれ、反政党主義を旗印とするものであったが、明治後期・大正期には元帥・元老として国政を担う立場にあり、慎重な国家運営を目指した。

肖像写真の出典：「近代日本人の肖像」（https://www.ndl.go.jp/portrait/datas/208.html）



本野一郎・盛一関係文書

（三五〇点　令和二年一二月公開）

本野一郎は大正時代に寺内正毅内閣で外務大臣を務め、その息子の盛一、孫である盛幸、そして一郎の父である本野盛亨も外交官として活躍しています。この度公開した関係文書は本野家四代に関係する書簡や書類、スクラップブックなどの資料を含んでいます。

本野盛亨宛の書簡は巻物に仕立てられ、岩倉具視のもの（明治七（一八七四）年一月三日）も貼り込まれています。この頃本野盛亨は英国の日本公使館で、臨時代理公使・外務一等書記官の職にありました。岩倉具視は本野盛亨に、公費で海外留学中の学生は召し返すこととなっているが、息子である具経は自費留学なので、よろしく頼みたいと、その留学費用の金銭管理を含めて、依頼しています。

この書簡が書かれた頃には多くの留学生が欧米各国に渡航し、アメリカだけでも明治元年から五年にかけて留学した人数が五〇〇人に達していました。しかし、その選抜についての疑問と費用の面から、明治六（一八七三）年十二月に文部省がその引き締めを検討し、ついに海外留学生を帰国させることに決定しました。岩倉具経は、明治三（一八七〇）年に渡米し、明治六年には英国のオックスフォード大学に留学していました。

なお、書簡の文末には、「御用繁ニ付代筆申附候御免被下度候」と代筆であることが記されています。そのためなのか、宛名である本野を元野と誤記してしまっています。

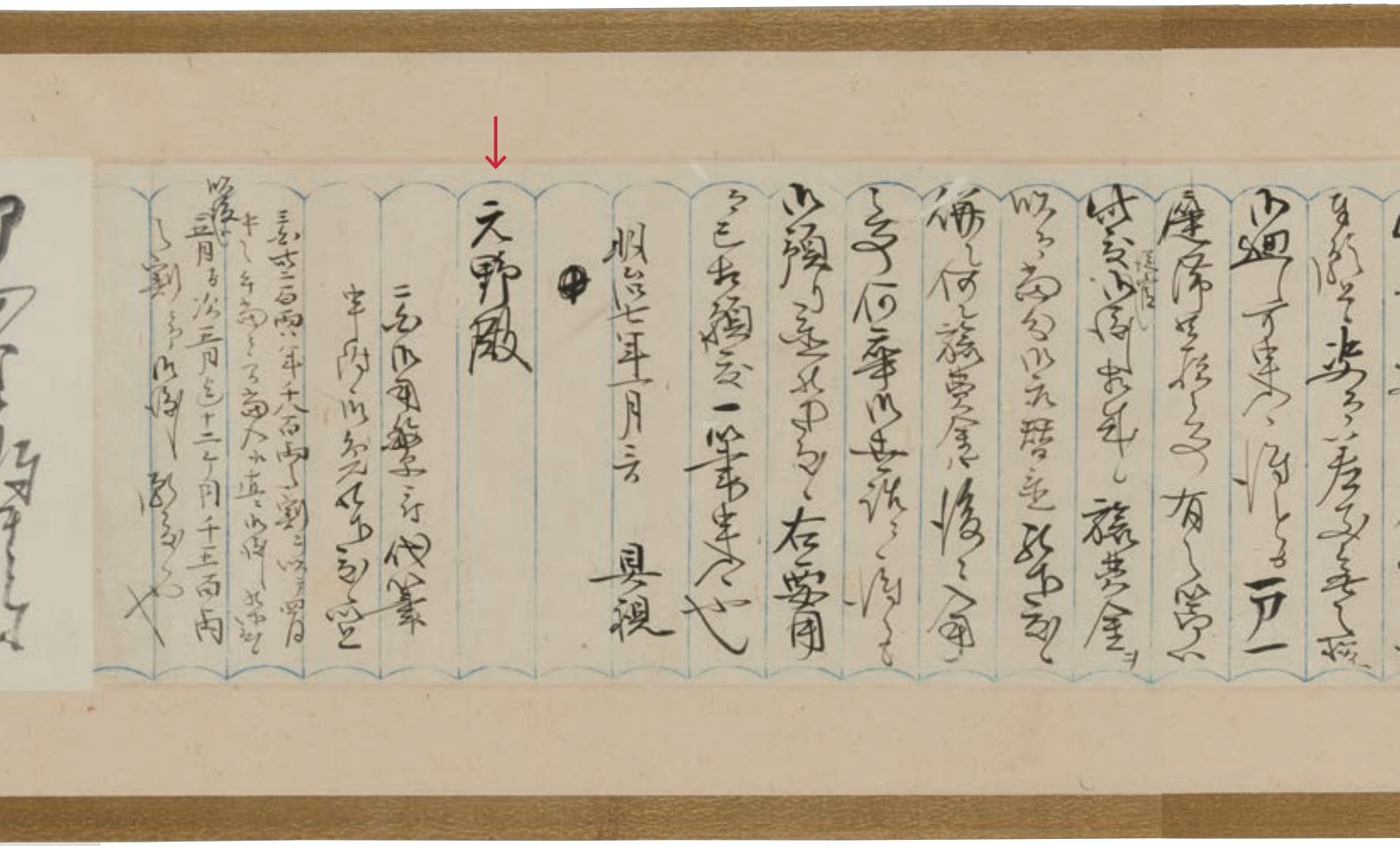


写真2　岩倉具視書簡 本野盛亨宛　明治7年1月3日付　<本野一郎・盛一関係文書1-11>

本野盛亨（1836-1909）

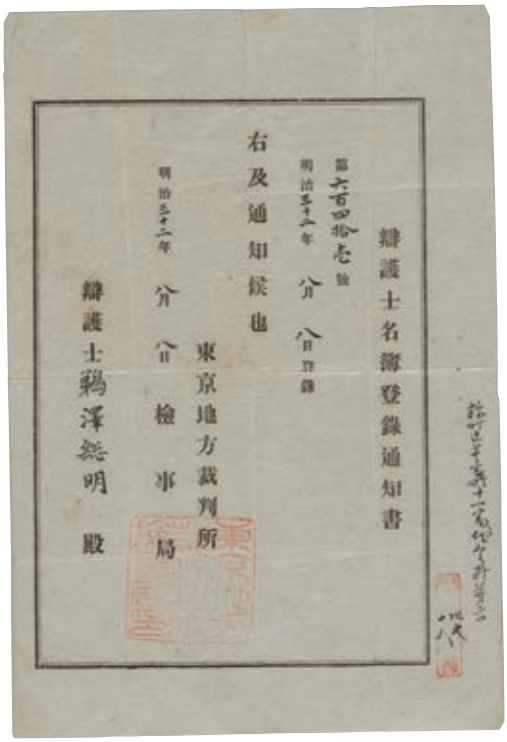
天保7(1836)年佐賀生まれ。官吏、実業家。維新後は神奈川裁判所に出仕するとともに子安峻、柴田昌吉と日就社（活版印刷）を創業、明治5(1872)年駐英公使館1等書記官として渡英。帰国後、横浜税関長、大阪控訴裁判所検事などを務め、明治7年には日就社の3人で『読売新聞』を創刊、後に2代目社長に就任した。明治42(1909)年没。

肖像写真の出典：「近代日本人の肖像」（https://www.ndl.go.jp/portrait/datas/203.html）

岩倉具視（1825-1883）

文政8(1825)年生まれ。公家。幕末期、公武合体派であったが討幕派に転じ、慶応3年12月、王政復古のクーデターを画策。明治政府では、参与、議定、大納言、右大臣等をつとめ、欽定憲法制定の方針を確定し、皇族、華族の保護に力を注いだ。

肖像写真の出典：「近代日本人の肖像」（https://www.ndl.go.jp/portrait/datas/23.html）


辯護士名簿登録通知書

第六百四拾壱號
明治三十二年 八月 八日登録

右及通知候也

明治三十二年 八月 八日 東京地方裁判所 検事局

辯護士鵜澤総明 殿

写真3　弁護士名簿登録通知書　明治32年8月8日　<鵜澤總明関係文書592>
東京地方裁判所検事局から鵜澤に宛てられた弁護士名簿の登録通知書。

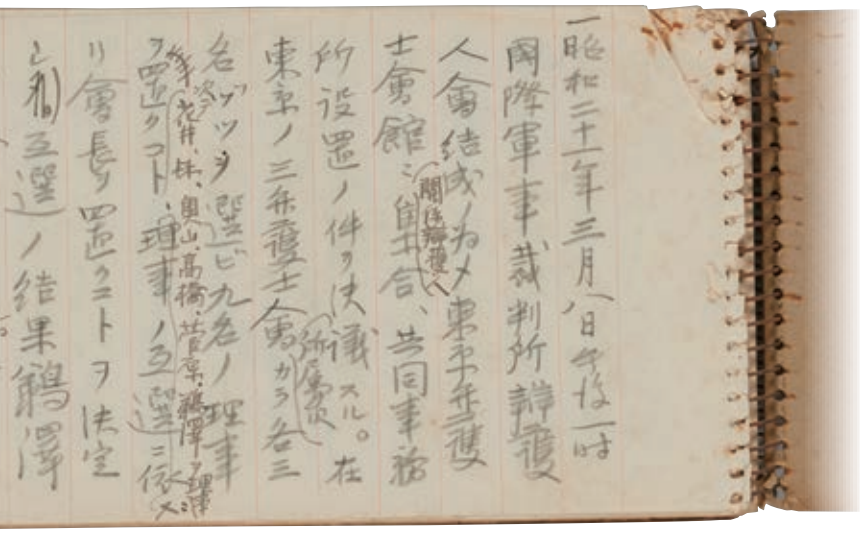

一昭和二十年三月八日午後一時
国際軍事裁判所辯護
人會結成ノ為メ東京弁護
士會館ニ集合、共同事務
所設置ノ件ヲ決議スル。在
東京ノ三弁護士會カラ各三
名ツヽ選ビ九名ノ理事
ヲ置クコト、理事ノ互選ニ依リ
會長ヲ置クコトヲ決定
シ互選ノ結果鵜澤

写真4　極東国際軍事裁判　備忘録　昭和21年3月8日～5月3日
<鵜澤總明関係文書484>
日付別に記載された鵜澤の備忘録。鵜澤は極東国際軍事裁判で弁護団長を務めた。

鵜澤總明関係文書（うざわふさあき）

（九八一点　令和三年一月公開）

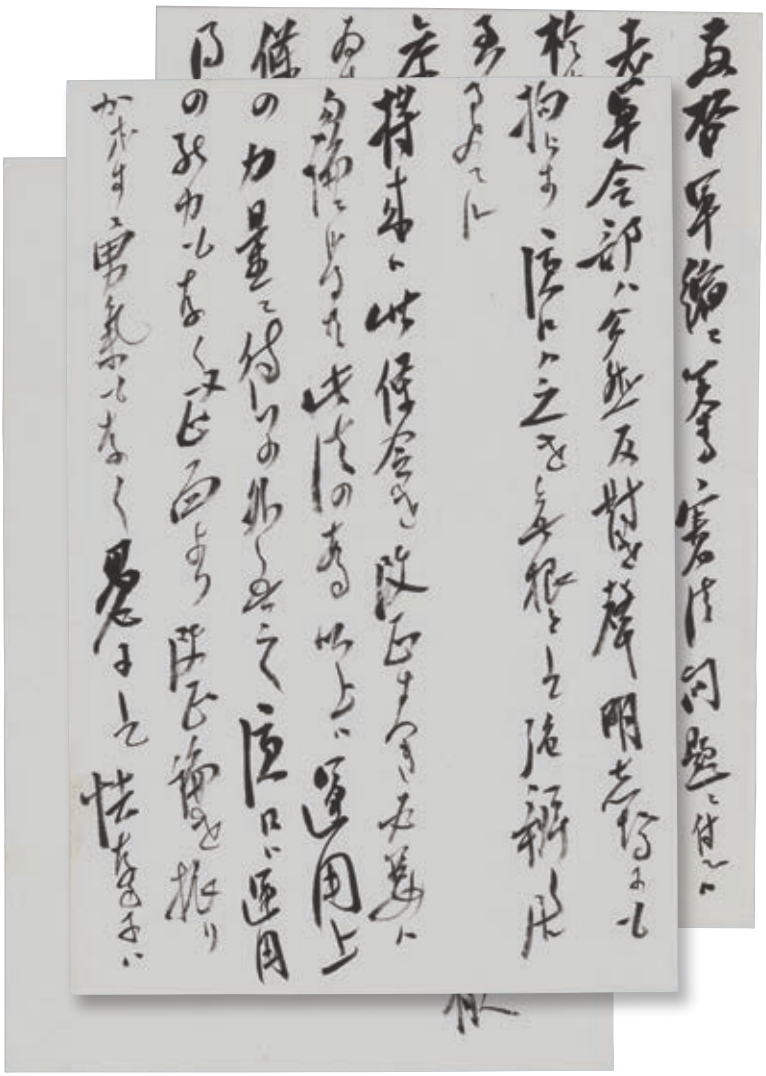
鵜澤總明は、衆議院議員（のち貴族院議員）、明治大学総長など、法曹界・政界・学界にわたって活躍した著名な弁護士です。このたび新たに九八一点に及ぶ資料の寄贈を受けました。

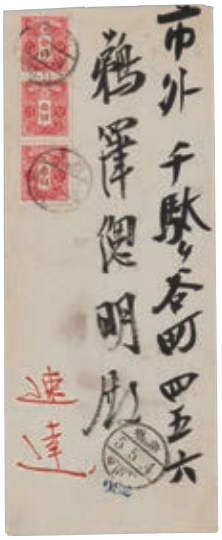
「感恩録」と題された明治三六（一九〇三）年から昭和三〇（一九五五）年までの日記、鵜澤が日本側弁護団長を務めた極東国際軍事裁判の資料、法律関係の原稿類、議会や大学の関係書類など多彩な資料が含まれています（写真3、4）。

約三五〇名からの来簡もあります。写真5はそのうち、犬養毅がしたためたもので、議会質疑を控えた鵜澤に対し奮発するよう促している書簡です。昭和五（一九三〇）年四月二一日に召集された第五八回帝国議会は、四月二二日のロンドン海軍軍縮条約調印をめぐり、兵力量の決定が「統帥事項」であるとする海軍軍令部と、その責任は内閣に帰するとした浜口雄幸内閣が鋭く対立した議会でした（いわゆる「統帥権干犯」問題）。

犬養自身もこの問題で衆議院本会議における浜口首相との論戦に臨み、追って鵜澤も、五月一〇日の貴族院予算委員会での浜口に対する質疑に立つことになります。

五月四日付のこの書簡の中で犬養は、衆議院における首相の態度は一切答えない乱暴至極の態度である、正面から軍令部条例の改正を振りかざす勇気もない、と激しく批判しています。書簡は速達で送られ、犬養の緊迫感がうかがえます。鵜澤は、予算委員会において「国防」の意義をめぐって浜口を問いただしました。





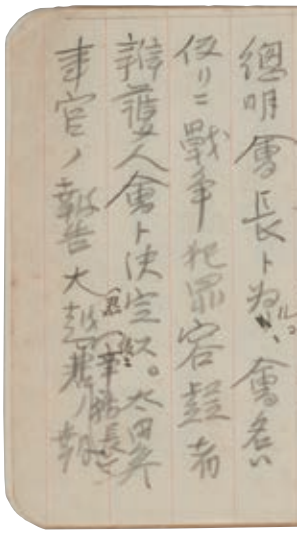
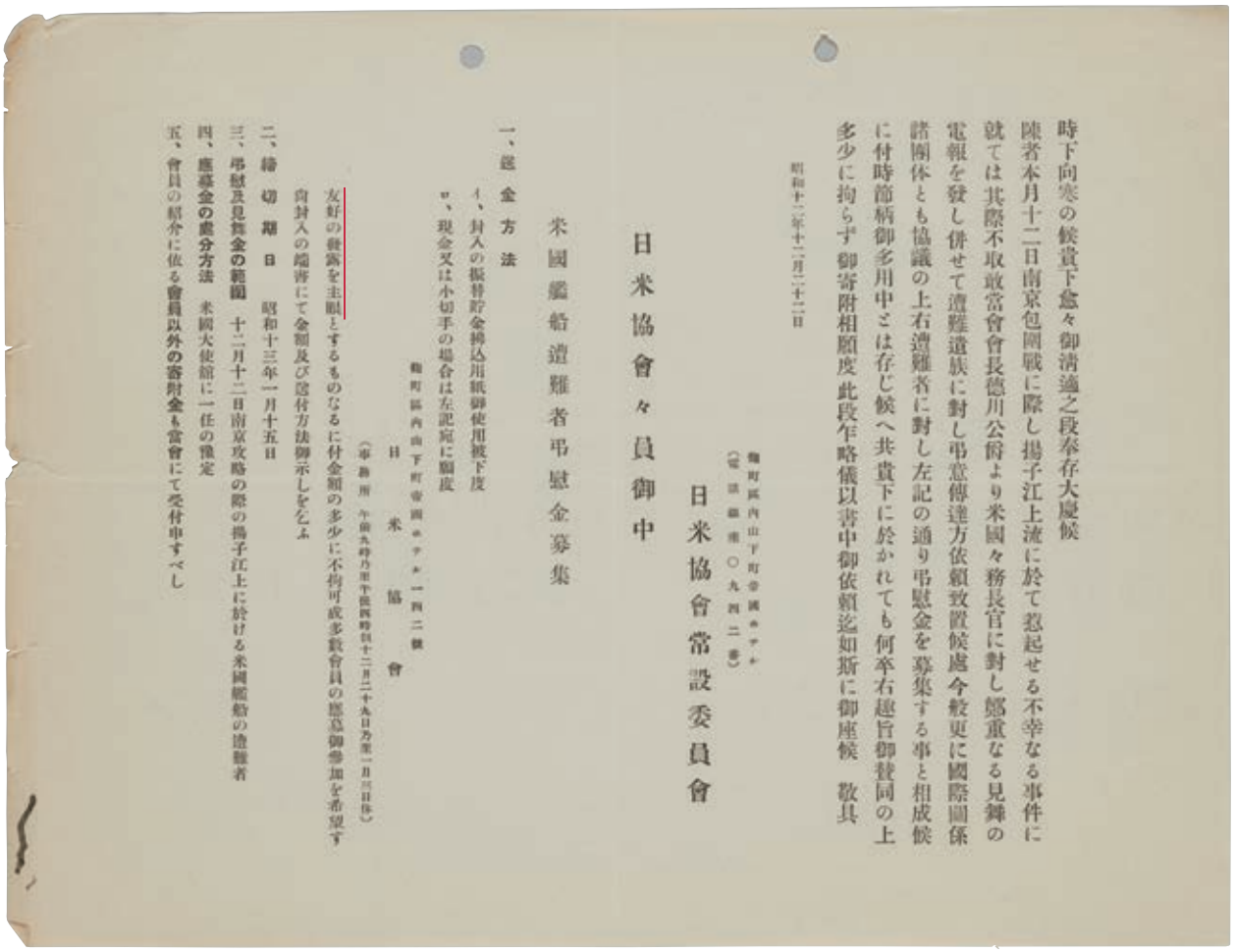


写真5　犬養毅書簡　鵜澤總明宛　昭和5年5月4日　<鵜澤總明関係文書26-1>

鵜澤總明（1872-1955）

明治5(1872)年千葉生まれ。東京帝国大学卒、明治32(1899)年8月弁護士登録・法律事務所開設。大逆事件、血盟団事件、相沢事件(永田鉄山暗殺事件)など著名な事件を数多く手がけた。戦後は極東国際軍事裁判日本側弁護団長を務めた。衆議院議員（1908年5月～1914年12月, 1915年12月～1924年1月）。立憲政友会に所属。昭和3(1928)年貴族院議員に勅選（昭和12(1937)年9月まで）。第一東京弁護士会長、明治大学総長、大東文化学院学長・総長を歴任。『法律と道徳との関係』など著書・記事多数。昭和30(1955)年死去。

肖像写真の出典：『アサヒグラフ』第48巻第6号　昭和22年8月<鵜澤總明関係文書485>



時下向寒の候貴下愈々御清適之段奉存大慶候
陳者本月十二日南京包囲戰に際し揚子江上流に於て惹起せる不幸なる事件に就ては其際不取敢當會會長德川公爵より米國々務長官に對し鄭重なる見舞の電報を發し併せて遭難遺族に對し弔意傳達方依頼致置候處今般更に國際關係諸團体とも協議の上右遭難者に對し左記の通り弔慰金を募集する事と相成候に付時節柄御多用中とは存じ候へ共貴下に於かれても何卒右趣旨御賛同の上多少に拘らず御寄附相願度此段乍略儀以書中御依頼迄如斯に御座候　敬具

昭和十二年十二月二十二日

麹町區內山下町帝國ホテル
（電話番號○九四二番）
日米協會常設委員會

日米協會々員御中

米國艦船遭難者弔慰金募集

一、醵金方法
イ、封入の振替貯金拂込用紙御使用被下度
ロ、現金又は小切手の場合は左記宛に願度
麹町區內山下町帝國ホテル一四二號
日米協會
（事務所　午前九時乃至午後四時但十二月二十九日乃至一月三日休）
友好の親睦を主眼とするものなるに付金額の多少に不拘可成多數會員の懇意御參加を希望す
尚封入の端書にて金額及び醵付方法御示しを乞ふ
二、締切期日　昭和十三年一月十五日
三、弔慰及見舞金の範圍　十二月十二日南京攻略の際の揚子江上に於ける米國艦船の遭難者
四、應募金の處分方法　米國大使館に一任の豫定
五、會員の紹介に依る會員以外の寄附金も當會にて受付申すべし

写真6　米国艦船遭難者弔慰金募集　＜日米協会関係資料18-11＞

日米協会関係資料

（七二七点　令和三年七月公開）

大正六（一九一七）年の創立から今日に至るまで日本と米国の民間交流の促進に努めている日米協会の資料です。このたび当館が寄贈を受けて公開した資料は主に一九三〇年代のものです。たとえば、昭和五（一九三〇）年にベルリン・東京間の飛行に成功したパイロット吉原清治が翌年に歓迎会のゲストとして招かれたり、昭和一三（一九三八）年には外交官出身の政治家である芦田均が一六か国周遊の空の旅についてスピーチを行ったりするなど、当時の資料から航空機の隆盛という時代の風が感じられます。

一方で、一九三〇年代は国際情勢が混迷を深めていく時代でもあり、日米関係においては昭和一二（一九三七）年に勃発した日中戦争の動向が懸案となりました。その最中、同年一二月には日本海軍の航空機が揚子江上の米国艦船を誤爆する事件（「パネー号事件」）が起こり、日米両国の間に緊張が走りました。これに対し、日米協会は徳川家達会長名で米国国務長官へ宛て見舞の電報を発しました。さらに、「友好の発露を主眼」として米国側死傷者への弔慰金募集を速やかに行い（写真6）、多数の類縁機関でも同じく寄付の動きがみられました。政治的に困難な時代にも変わらない、民間での親善活動の様子が表れています。

日米協会
大正6(1917)年東京で創立。日米民間交流の促進を目的とし、訪日米国人名士の受入れや日米間の文化交流等に尽力。日米国交断絶により一時活動を停止したが、戦後に活動を再開。

河上丈太郎関係文書

（五〇八点　令和二年二月公開）

河上丈太郎は、戦前・戦後の衆議院議員で、日本社会党委員長などを歴任した政治家です。敬虔なクリスチャンで、昭和二七（一九五二）年の日本社会党（右派）中央執行委員長の就任挨拶で、聖書になぞらえ「委員長は私にとって十字架であります」と演説したことから「十字架委員長」と呼ばれました。

このたび寄贈を受けた河上丈太郎関係文書は、そんな河上が残した日記・手帳（一部、河上丈太郎父・新太郎、長男・民雄らのものも含む）、日本社会党内の政策関係資料、新聞・雑誌のスクラップ等から構成されています。戦後の日本社会党や議員活動の態様がうかがえるという点で、政治史研究において貴重な資料群と言えます。

中でも特色のある資料の一つとして、昭和二四（一九四九）年から最晩年の昭和四〇（一九六五）年一月まで、ほぼ毎日にわたる河上自筆の日記があります。とは言え、内容はやや淡白なもので、多くは赴いた場所や会った相手などのメモのようですが、少なからず「礼拝にいく」「祈る」という記述が見られます。

ただ、昭和三一（一九五六）年の日記帳の冒頭に、なぜか昭和二〇（一九四五）年六月三〇日と翌七月一日の二日間だけの記述が残っています。そこには「民雄上野をたつ。元気なりし彼も最後に離別の手をあげたときの顔は涙カ出そうにみへた。民雄カ去つた残の淋しさは無限である」、「夜二階のソファーによこたはり民雄を思ふ。（中略）涙さへ出る　愛の足らざりし父の悔の涙である　ゆるせ」（写真7、8）と、軍の招集で離れる息子（民雄）に対する、率直な親心が綴られていました。

写真7、8　日記（右）昭和20年6月30日（左）同年7月1日　<河上丈太郎関係文書8>

河上丈太郎（1889-1965）

明治22(1889)年東京生まれ。衆議院議員(1928～1930年,1936～1945年,1952～1965年)。昭和10～15(1935～1940)年に社会大衆党中執委員。戦後に公職追放を受けるが、昭和27(1952)年、日本社会党（右派）中央執行委員長に就任して政界復帰し、日本社会党の統一に尽力。昭和36～40（1961～1965）年には統一後の党委員長を務め、昭和40(1965)年死去。長男・河上民雄も衆議院議員（7期）、日本社会党国際局長を務めた。

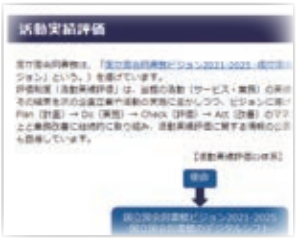
あるときは、地を這う虫の視点で所蔵資料1点の行方をしつこく追いかけ記録していたかと思えば、あるときは、大空を飛ぶ鳥の視点で国立国会図書館の全体像を眺めている。そんな近づいたり離れたりのユニークな動きで、私の所属する総務部企画課評価係は、当館で行われている様々な業務の実績を把握・分析し、館全体の評価（「活動実績評価」）を取りまとめています。

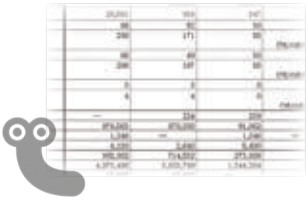
評価係の業務のうち、今回ご紹介するのは「統計」と「評価」。統計業務では、うんと館に近づいて、各部署が行う日々の業務やサービスの実績を確認しています。おっと、「なぜ評価係が統計を担当しているの？」という声が聞こえてきました。それは、客観的な評価のために、活動を正確に表した数字が必要だからです。そんな大切なデータは、毎月、各部署から提出されたら係3名全員で確認。パソコン本体と外付けディスプレイの2画面を駆使し、所蔵資料1点、レファレンス1件のずれも見逃さないようチェックしています。

そのようにチェックしたデータを用いて行うのが、評価係のレゾンデートルである評価業務。4月に前年度を評価する作業が始まると、所蔵資料1点までズームインしていた目をぐっと遠ざけて、年度単位での各事業の進捗や成果をもとに館全体の評価をまとめていきます。また、夏には有識者会議を開催し、評価について外部の視点からチェックしていただきます。この会議における入館2年目の私の担当は、会議室の確保や資料の送付、議事録作成などの庶務作業。地味な仕事ではありますが、会議開催のためには作業をスケジュールに沿って確実に進行させる必要があり、準備期間はカレンダーとにらめっこで気を張る毎日でした。会議を経て確定した評価をホームページで公開すると、前年度の評価はひとまず完了。次年度の準備が始まります。

「統計」も「評価」も、その対象は館の事業全体にわたります。入館当初、方向音痴の私は広い館内で迷子になることがありましたが、業務でも、巨大な図書館で迷子になってしまったような気持ちになることがしばしば。その広範さに圧倒されながらも、近づいたり離れたり、日々様々な視点から当館を眺めることで、ようやく、少しは自信をもって歩けるようになってきました。法律に定められた使命のもと、多様な事業を行う日本一大きな図書館の全貌。皆さんにも、統計や活動実績評価を頼りに探検していただけると、一評価係員として嬉しく思います。

（企画課評価係　遠近両用）





近づいたり
離れたり

館内スコープ

※統計、活動実績評価は国立国会図書館ホームページで公開しています。
　ホームページ＞国立国会図書館について

大阪府立中央図書館

大塚 和美

２０１９年、大いに盛り上がったラグビーワールドカップで、試合会場の一つとなった花園ラグビー場のある東大阪市に、大阪府立中央図書館があります。〝大阪府立の図書館〟と言えば、建物が国の重要文化財に指定されている大阪府立中之島図書館を思い浮かべる方がいらっしゃるかもしれません。大阪府立図書館は、中央図書館と中之島図書館の２館体制で運営しています。中央図書館は総合図書館として、中之島図書館は古典籍や大阪およびビジネス関係資料を提供する図書館として、連携してサービスを提供しています。

ここで少し大阪府立図書館の歴史を紹介します。１９０４年「大阪図書館」として中之島に開館し、１９０６年「大阪府立図書館」に、１９７４年「大阪府立中之島図書館」に改称されました。一方、大阪府立中央図書館は、天王寺分館から「夕陽丘図書館」の独立開館を経て、高度化・多様化する図書館

大阪府立中之島図書館の外観。
建物が国の重要文化財に指定されています。

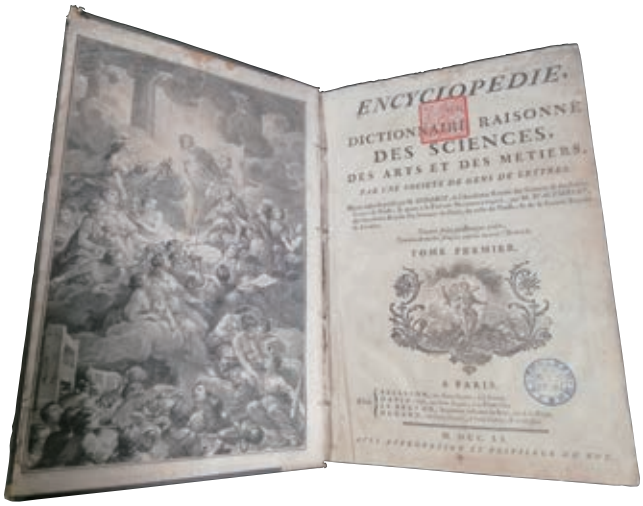
（上）利用者入口付近、（左上）１階小説・読物室、（左下）こども資料室。

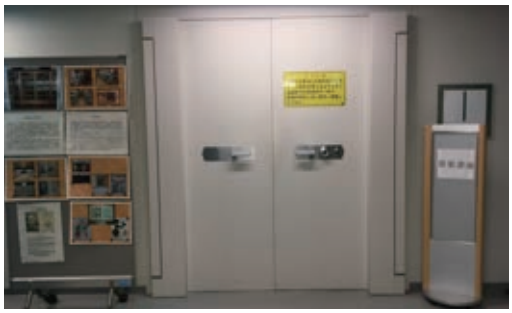
サービスの向上を目指し、１９９６年に開館しました。さらに、２０１０年には大阪府立中央図書館の１階に「国際児童文学館」が移転開館しました。２０２１年３月末現在、大阪府立中央図書館には約２９０万点の所蔵があります。これは公立図書館単館では日本一の蔵書数です。

建物外観は、本を横に積み重ねた様子を表しており、中は開放的で広々とした造りになっています。地上４階、地下２階（地下２階は駐車場）で、１階には、こども資料室、小説・読物室、カフェ、障がい者支援室などがあります。また、演劇や音楽会などの催し物ができる３８４名収容可能な「ライティホール」が設置され、生涯学習の場としての役割も備えます。２階は主に新聞があり、複写カウンターなどがあります。３階は社会・自然系資料室、４階は人文系資料室で、各主題の図書、雑誌が開架されています。

地下１階は、資料の整理を行う資料情報課と、およそ５，０００㎡の広大な書庫スペースになっています。広い書庫であっても迅速に出納するため、なんと、三輪の自転車に乗って本を取

（右・下）地下書庫の本の出納のため、三輪自転車で出発！　曲がり角では特に注意が必要です。





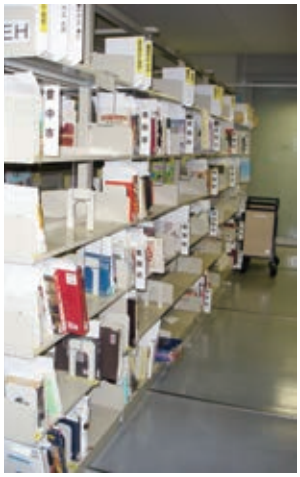
（上）『フランス百科全書』の標題紙。
（右上・右下）貴重書庫の入口と内部。

りに行きます。当初は小型の電気自動車が導入されていたそうですが、職員の発案で小回りのきく自転車に代わったそうです。試しに乗ってみたところ、屋内で自転車に乗って移動する経験は初めてでしたので、うまく運転できませんでした。もちろん、事故が起きないよう、通路の交差点や作業中の書架に差し掛かる際にはベルを鳴らすなど、安全に配慮して運用されています。

奥には、貴重書庫があります。扉はまるで金庫のような頑丈さで、ダイヤル式の鍵がかかっており、開くには複雑な手順が必要です。貴重書庫の中は、天井、床、壁、棚がすべて杉などの木材でできており、資料保存に適した温湿度管理がされています。

中に保存されている主な資料は、ディドロ、ダランベール監修『フランス百科全書』（初版、１７５１～１７８０年）、ガリレオ・ガリレイ『天文対話』（ラテン語版、１６４１年）、アダム・スミス『国富論』（初版、１７７６年）といった洋書です。これらは、「おおさかｅコレクション」で画像が公開されており、本文を読むことができます。

（右・下）３階の社会・自然系資料室から外に出ると屋上庭園があります。ここでひと息つくのもおすすめです。屋上庭園にあるらせん階段で３階と４階の間を移動することができます。



（左・下）相互貸借用の資料を仕分ける棚と、協力車に積み込むところ。府内の各市町村の代表館を週１回、大阪市へは週2回運行しています。

筆者は大阪府立中央図書館に実務研修員として勤務しています。

１年目は、協力振興課に配属されました。ここでは、府域市町村の図書館や学校等に対し、情報提供や研修をはじめとする支援を行うとともに、相互に図書館の資料をご活用いただけるよう、協力車の運行を管理・運営しています。

秋には、いくつかの市町村図書館へ出向き、大阪府立図書館へのニーズをお伺いし、各図書館の状況を聞く巡回相談を行いました。各図書館での工夫を凝らした展示や棚のディスプレイ、特に新型コロナウイルス感染拡大防止への取り組みや工夫など、直接拝見して伺うことができました。中でも、太子町立図書室へは、出前講習として、国立国会図書館が提供するデータベースの使い方を紹介させていただき、国立国会図書館での業務経験を活かすことができました。

また、大阪府立中央図書館では、大阪府内の小・中・高等学校等を対象に、「スクールサービスデイ」事業を実施しています。休館日に全フロアを子どもたちに開放し、のびのびと使ってもらうイベントです。館内見学に加えて、おはなし会や障がい者サービスの紹介などのプログラムを提供し、毎年好評を得ています。ただ、令和２年度は新型コロナウイルス感染対策として、見学時の説明で大きな声が出せないため、あらかじめ作成しておいた動画の説明を観てもらう、館内見学では静かに、おはなし会は密にならないように広いスペースで行うなど、工夫し、内容を大幅に見直して何とか開催することができました。その甲斐あって、先生や生徒たちに大変喜ばれ、最後に一斉に「ありがとうございました」と元気よくお礼を言っていただいたことが印象に残っています。

２年目となった現在は、調査相談課に配属され、３階にある社会・自然系資料室で、カウンターや電話でのレファレンスサービスや、どの本を購入するのかについて相談して決定する「見計らい選書」等の業務に携わっています。

資料室の中央にカウンターがあって、近くには参考図書が配置されており、レファレンスに対応しやすいように工夫されています。カウンターに向

（右）新型コロナウイルス感染症対策のためパーテーションを全面に並べたカウンター。
（右下）夏休みの「自由研究応援団」の名札用の生きものたち（ラッコ、クジラ、セミ）。職員が折り紙を折って作ります。

かって右側が社会科学系資料、左側が自然科学系資料と、分野に分かれて約18万冊が開架されています。開架資料が多いため、利用者の方が場所を見つけるのに苦労され、書架をご案内することも多くあります。また、資料室から直接屋上庭園に出ることができ、外の空気を吸ってリフレッシュできます。

大阪府立中央図書館での実務を通じて、国立国会図書館と大きく違うと感じたのは、スクールサービスデイをはじめ、子どもがサービスの対象として重視されているという点です。国立国会図書館の東京本館と関西館では、利用対象は原則18歳以上の方で、子どもへのサービスは、国際子ども図書館が提供しており、はっきりと分かれていますが、大阪府立図書館では、年齢に制限はありません。たいていの県立図書館でも年齢制限はありませんが、大阪府立中央図書館では1階にこども資料室があり、子どもたちだけでも入りやすく、もっと調べたいという子どもや中高生が、3階・4階に調べに来ることもあります。そのため夏休み期間には全司書職員が「自由研究応援団」の表示を名札に付けて声をかけやすい配慮をしています。また逆に、大人であっても、わかりやすい本をお求めになる方や写真やイラストが必要な方に、こども資料室をご案内することもあります。

また、各カウンターでは手話通訳や筆談を希望する際に提示していただくカードを配置し、必要に応じて手話通訳者を呼び出して対応しています。手話通訳者はカウンター職員が手話で簡単な利用案内ができることを目指して職員の手話研修講師もつとめていて、筆者も研修を受講しています。

2020年4月に大阪府立中央図書館に来たときは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時休館していました。2021年春も緊急事態宣言により臨時休館を余儀なくされ、平常時ではない状況下での実務研修となりました。それでも例えば、研修の動画を撮影しインターネット配信を行うといった、図書館として新しい試みに挑戦するという得難い経験ができました。残りの研修期間も、少しでもお役に立ちたいと思います。

国立国会図書館で働いてます

Season2

no.3

今どんなお仕事をされていますか。収集第二係って、一と三と、どう違うんですか。

支払いが発生しない資料の収集です。具体的には、国の機関や地方公共団体などが発行した資料と、民間が発行した資料でも代償金（注）をお支払いしない無償のもの。それから、発行者ではない第三者から寄贈された資料です。

納本制度（注）で定められている資料の収集ですが、いろんなパターンがあるんですね。民間でも代償金を支払わない場合もあるとは知りませんでした。

個人発行資料や、大手出版社のうち無償で納本してくれる出版社があるんです。書店に並んでいるような資料は取次経由（有償）で入ってくることが多いのですが、無償でいいですよというところも少なからずあって。

官庁出版物は、国の機関や地方公共団体が発行したものは、部外秘の資料以外はすべて集めるイメージです。

寄贈では、古今の様々な資料を目にできます。外部の図書館などが除籍した資料をまとめて寄贈してくださることも多いです。最近では、明治時代の医学関係資料が大量に寄贈されました。

本当にいろいろですね。でも、基本的には、資料の到着を待っている、ということですか。

そうですね、けっこう量には波があります。年度初めが一番大変ですね。年度末で締めて年度初めに出すことが多いみたいで。

資料が来て、そのあと何をするのでしょうか。目録を作るのはイメージできるのですが。

段ボールとかに入って大量に資料が来ますので、まずそれを開封して。和書だったり、洋書だったり、CDだったり、古典籍が混じっていたりして、それぞれ行き先が違うので、道の整理をしてあげるんです。

なるほど。その分け方で迷ったり？

けっこう迷いますね。これは果たして雑誌なのか図書なのか、とか。CDと本が一緒になっているものは、本がメインだったら「図書資料」、CDがメインだったら「非図書資料」という扱いになって請求記号も変わりますし。一応、基準はあるんですが、それでも迷うので、いろいろ調整しながら。あと、資料を最初に受け付けた際の基本的な入力作業は業

伊東 祐介　収集書誌部国内資料課収集第二係長

平成16（2004）年7月	収集部　外国資料課　選書係
平成18（2006）年4月	収集部　外国資料課　外国購入係
平成19（2007）年7月	資料提供部　雑誌課　運営係
平成22（2010）年4月	資料提供部　雑誌課　雑誌第二係
平成24（2012）年1月	利用者サービス部　サービス運営課　総合案内係
平成25（2013）年7月	参議院事務局に出向
平成26（2014）年1月	利用者サービス部　サービス企画課　展示企画係
平成28（2016）年4月	収集書誌部　国内資料課　収集第二係
平成29（2017）年4月	収集書誌部　国内資料課　収集第二係長

注：納本制度とは、出版物を公的機関に納入することを発行者等に義務づける制度で、日本では国立国会図書館法により、国内で発行されたすべての出版物を国立国会図書館に納入することが義務づけられています。民間出版物には費用（通常、定価の5割＋送料）を代償金として交付します。

者さんにお願いしているので、いろいろ指示を出すんです。これはこういう資料なので、こういう設定で入力してください、と。

最初で間違えたら台無しになっちゃうわけですね。

そうなんです。右から左に流しているわけじゃないんです！（笑）

ものがバーンと来たりして、図書館に勤めているぞって実感がありそうですね。

実際に資料を手に取れるというのは魅力的ですね。閲覧部門にいても手には取れるんですけど、慌ただしく出して戻して、のことが多いです。ここでは検収したりする必要があるので、もう少し資料と向き合うことができますね。乱丁、落丁がないか、中に何か挟まっていないか、とか。あと名簿類、個人情報があったりすると、特別な処置をしたうえで提供しているので、見逃さないように。それから、官庁出版物は「支部図便」っていう車に乗って、各省庁に設置された支部図書館を回って資料を渡したり、受け取ったりもしてるんですよ。支部図書館・協力課等の職員と当番で回ってます。「集めている」実感がありますね。

◆◆◆

入館して最初も収集部門だったんですね。外国資料課選書係、外国購入係ではどんなお仕事をされていましたか。

選書係では、主に海外で発行された日本関係資料の選書、外国購入係では、発注から購入にあたっての会計処理、資料現物の受理などを行っていました。外部の書店さんとやり取りすることも多く、それもなかなか楽しいものでした。

資料提供部の雑誌課では、「個体化」という作業をしていましたね。『国立国会図書館七十年記念館史』にも個体化作業をしている伊東さんのお写真が。

あ、ほんとだ（笑）。NDL-OPACが平成14年にできたとき、資料1冊ごとに巻号や出版年月などの情報をシステムに登録して、バーコードを貼って、「今誰かが閲覧しています」とかがわかるようになったんです。それを「個体化」と言います。ただ、雑誌は7割くらい、その作業ができていなかったんです。バーコード（個体情報）がないと、何号が所蔵されているのかもわかりにくいし。貸し出す際には、バーコードがなくても、その都度、控えとして一時的な貸出情報を作るのですが、返却されるとそういう情報は全部消えてしまい。その繰り返しでした。一度個体情報を作ってバーコードを貼ってしまえば、後はそれを読み込むだけでいろいろな処理がとても簡単にできるようになりますから。

当時はOPACの画面の下のほうに「これ以外の巻号もあります」って表示されてましたね。

そうなんです。だから利用者の方は、自由記入欄に本当に自由に入力して申し込む。そうすると時には、思っていたのと違う巻号が出納されてしまい、トラブルになってしまって。出納業者さんがとても苦労していたので、バーコードを貼る作業をしようと。

NDL-OPACができてから、だいぶ時間がかかったということですか。

平成24年にOPACがリニューアルするときに、新システムは、バーコードがないとどうにもならないことがわかったので、リニューアル直前までかかってすべて終えたと思います。最初は少しずつやっていたんですけど、協力してくれる人がだんだ

ん増えていって、そのうち「個体化班」というのが立ち上がって。みんなでラベルプリンタを置いて、せっせと。

一大事業ですね。

あとは雑誌課では、通常のカウンターのローテーションで、利用者の方からの「ありがとう」の言葉が励みになりました。クレーム対応もけっこう多くて勉強になりました。

それが総合案内係に異動された理由ですか。平成24年に館内利用システムが新しくなるのにあわせて新設された係でしたよね。フロアに職員が立つというのがはじめてだったかと。

マニュアルもなく、最初はシステムダウンもあったので、当時同じ係だった人とは今も思い出話になります。戦友みたいな感じですね（笑）。そのあとの展示の係では、一つ一つの仕事をじっくり準備をするのがとても新鮮でした。資料の解題作成や、資料への光の当て方の工夫とか。

◆◆◆

旅行がお好きと聞きましたが。

稚内とか鹿児島とか、ローカル線を乗り継いでいく旅が好きです。ローカル線はゆっくり走るし、地元の高校生とかお年寄りとか、その土地の言葉を聞きながら、車窓の風景にのんびり浸るのが楽しみです。

おすすめのローカル線は？

北海道の釧網本線、それから熊本の肥薩線。ある程度遠くまで行くと絶景の線があります。一番好きだった北海道のちほく高原鉄道はなくなってしまいました。

応援したくても、今はなかなか遠くまで乗りにも行けないですね。それを埋めるのは何でしょうか。

自転車でお出かけすることぐらいかなあ。子どももまだ小さいですし。今住んでいるところは緑が多いので、自転車に乗っているとほやほやと疲れがとれる気がします。あと休日は基本的に家事をしてます。

えらい！　大学では何を専攻されていましたか。

大学では一応法律を。あまり熱心ではなかったんですが、刑法は面白くてかなり勉強しました。こういうことをするとこういう犯罪になるっていうのが、体系的になってて。しかもわりと身近なことが。

で、なぜ国立国会図書館（ＮＤＬ）を受けようと思ったんでしょうか。

実家から歩いて30秒くらいのところに図書館があって、好きだったんです。横浜なんですけど、中央図書館もすごく充実していて。図書館楽しいな、お仕事できたらいいなって思ったんです。

今後、ＮＤＬはどうあるべきだと思いますか。

日々「刊行物はウェブに移行しました」というお知らせが来たり、ＤＶＤが減ってきたりしてるのを目にしてると、新しいことにアンテナを張り続けていかなければいけないんだろうなと。答えや行き先がわかっているものはこれからはあまりなくて、本当に手探りで進めていかなければいけない。

あと、たとえば自治体が住民向けに発行した生活案内とか啓発の冊子とか、捨てられちゃうようなもの。そういうものも１００年くらい経つと面白いものになるんじゃないかなと。明治時代のそういうものがたまたま入ってきたりすると面白いですよね。それと同じことが１００年後とかにありうる。資料の価値みたいなものも変わってくるのかなと思って。どう使われるかはわからないけど、とにかく集めておく。それが唯一の国立図書館としてやっておくことなのかなと。

資料の価値は今判断できないものも多いと思います。その自治体で取っておいてくれているかもしれないけど、災害もありえますし。

コロナ前までは地方自治体に出張に行って、納本制度のアピール活動もしていたんです。自治体の文書庫はそんなにスペースないみたいで、「ＮＤＬで保存します」と言うと安心してくださっていました。連携して、とにかく残すことが大事だと思います。

大井川鐵道井川線の終着駅。南アルプスの山中にあります。

本屋にない本

愛は目に見えない。しかし、描き出すことはできる。そのメディアの一つとして存在しているのが、少女まんがである。

少女まんがは様々な愛を描き出してきた。その中でも、恋愛は少女まんがの王道のテーマとも言える。しかし、かつては親子間・兄弟間の愛や、人間と動物の間に育まれる愛の表現は認められても、恋愛を取り上げることはタブーであった。恋愛というテーマを切り開いたのは、水野英子の作品、特に1963年から『マーガレット』に連載していたロマンチックコメディ『すてきなコーラ』であると言われている。それを皮切りに、少女まんがのテーマは広がりを見せるようになった。

少女まんがに新しい風を吹き込んだ『マーガレット』と、姉妹誌の『別冊マーガレット』からは、その後も数々のヒット作品が生み出された。本書は、両誌の創刊50周年を記念した展覧会「わたしのマーガレット展」の公式図録であり、半世紀にわたる道のりを、代表的な作品の原画や解説などを交えて紹介している。

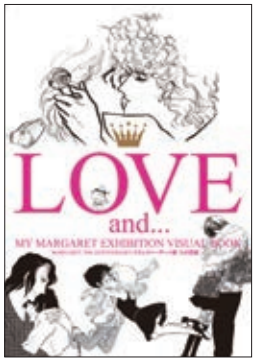
各章のタイトルは、「LOVE and SPIRIT（第2章）」「LOVE and SCHOOL DAYS（第9章）」など、本タイトルの『LOVE and …』に言葉を続けたものになっており、「LOVE」を主軸としながら、様々なストーリーが両誌で紡がれてきたことを表現している。歴代の作品を見ると、王道の恋愛ものはもちろんのこと、そこにスポーツやコメディ、学園生活等の様々な要素が絡められた作品のほか、ラブストーリーに留まらないヒューマンドラマや、少女まんがの固定観念を破る作品も登場するなど、作品のバラエティが豊かになり、少女まんがの多様性が育まれていく様がうかがえる。

本書には、展覧会で展示されたすべての原画が収録されており、その数は400点に迫る。原画は筆致の繊細さがより伝わってくるほか、ホワイトや文字入れの跡、ベタのむらなども分かり、誌面や単行本で見る作品とは違うリアルさがある。カラー原画も、数十年の時を経てもその色彩は鮮やかなままだ。

章間には両誌ゆかりのまんが家のインタビューが収録されている。わたなべまさこ、水野英子のような『マーガレット』創刊号の執筆陣から、『マーガレット』の読者であった池田理代子や槇村さとる、『別冊マーガレット』への投稿作品を細かく添削する「別マまんがスクール」出身のくらもちふさこ等の、両誌から影響を受けたまんが家へとバトンが受け継がれ、歴史が形作られていったことが分かる。

本書は『マーガレット』『別冊マーガレット』のみならず、少女まんがの歴史を知る資料としても、読み応えのあるものとなっている。手に取って見るだけでも目を楽しませてくれるのに加え、掲載されている作品から懐かしさをおぼえる方も多いのではないだろうか。

（児玉 安奈）



LOVE and …
MY MARGARET EXHIBITION VISUAL BOOK　MARGARET 50th ANNIVERSARY　わたしのマーガレット展 公式図録

集英社 企画・編集　わたしのマーガレット展プロジェクト 発行
2014.9　259p；26cm
<請求記号 KC486-M160>
※画像提供：集英社

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。
このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介します。

令和3年度東日本大震災アーカイブシンポジウム「震災記録を残す、伝える、活かす」

国立国会図書館と東北大学災害科学国際研究所は、「東日本大震災アーカイブシンポジウム」を開催いたします。

震災記録の伝承に向けて様々なアーカイブの取組が行われていますが、単に震災記録を収集・保存するだけでなく、東日本大震災の記憶と教訓を後世へ継承していくために復興事業や防災・減災対策、教育など様々な分野で利活用されることが期待されています。

本シンポジウムでは、被災地における震災記録の保存・利活用に向けた草の根の市民団体における取組や長野県及び岐阜県におけるアーカイブの構築・活用の事例を紹介するとともに、登壇者全員により震災アーカイブの利活用促進について議論します。

○日時
令和4年1月10日（月曜・祝日）午後1時～4時

○会場
東北大学災害科学国際研究所多目的ホール
（仙台市青葉区荒巻字青葉468-1
仙台市営地下鉄青葉山駅下車　南出口徒歩5分）
会場の映像をウェブ会議システム（Zoom）を用いて事前登録者に対して同時配信します。
なお、新型コロナウイルス感染症の状況により、オンラインのみの開催となる場合があります。

○プログラムと登壇者（敬称略）

【事例報告】
佐藤正実（3・11オモイデアーカイブ代表）
武田真一（3・11メモリアルネットワーク代表（宮城教育大学特任教授））
廣内大助（信州大学学術研究院教育学系・教授）
小山真紀（岐阜大学流域圏科学研究センター准教授）

【進捗報告】
中川　透（国立国会図書館電子情報部主任司書）
柴山明寛（東北大学災害科学国際研究所准教授）

【パネルディスカッション】
（進行）柴山明寛
（パネリスト）報告者全員

○申込方法
「みちのく震録伝」（http://shinrokuden.irides.tohoku.ac.jp）掲載のシンポジウム案内からリンクしている「参加申込みフォーム」にてお申し込みください。定員（会場80名、オンライン200名）に達した時点で受付を終了します。

○問合せ先
東北大学災害科学国際研究所 災害人文社会研究部門災害文化アーカイブ研究分野
電話　022（752）2099
電子メール　archiveforum@irides.tohoku.ac.jp
※シンポジウムの詳細については、「みちのく震録伝」ホームページをご覧ください。

新刊案内

レファレンス　850号

我が国におけるジェンダー平等教育の現状と課題
スウェーデンの動物保護法令の概要―動物保護（スウェーデン法令全書2019年第66号）―（資料）
日本及び諸外国におけるDV被害の現状と対策
福島第一原発のALPS処理水の海洋放出をめぐる問題
責任あるサプライチェーンと人権デュー・ディリジェンス

A4 152頁 月刊 1,000円（税別）
発売　日本図書館協会

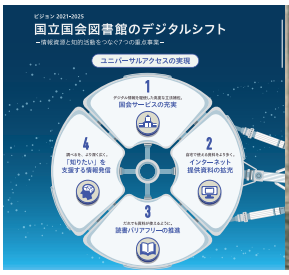
入手のお問い合わせ
日本図書館協会
〒104-0033　東京都中央区新川1-11-14
電話　03（3523）0812

国立国会図書館月報

年間索引

一般記事

類似検索で辿るまだ見ぬ資料の世界：次世代デジタルライブラリーの画像検索を使って　（川島 隆徳）	1	16-20
数字で見る国立国会図書館：『国立国会図書館年報 令和元年度』から	1	23-26
表紙画家セレクション　第二輯	2	20-23
議会開設百三十年記念　議会政治展示会　歴史をつくってきた議会、議場：ビジュアル資料からふりかえる	3	5-15
ビジョン2021-2025　国立国会図書館のデジタルシフト―情報資源と知的活動をつなぐ7つの重点事業―	4	6-7
座談会「デジタルシフトを進めよう」	4	8-17
講演会「絵本への期待―平成の絵本作家と編集者、そして読者―」　（今田 由香）	4	18-23
電子展示会「国立国会図書館憲政資料室　日記の世界」	4	25-28
国立国会図書館七十年記念館史を刊行しました	5/6	17-21
より便利に！　国立国会図書館の書誌データ	5/6	30-31
あるアジア系アメリカ人が遺したもの：ヨシオ・キシのコレクションより（松田 恵里）	7/8	5-14
あの人の蔵書第5回　キシ・コレクション、ヨシオ・キシ及びアイリーン・ヤーリン・スンコレクション	7/8	6-9
ディラン・イェーツさんインタビュー	7/8	10-14
表紙画家セレクション　第三輯	7/8	24-27
ミニ電子展示「本の万華鏡」第29回　めーきゃっぷ今昔：江戸から昭和の化粧文化	7/8	28-29
第56回貴重書等指定委員会報告：新たな貴重書のご紹介	9	1-16
浅野家所蔵「天文方渋川家関係資料」の寄贈に際して　（浅野 珠枝）	9	17-21
烏有に帰す　喪われた公文書、残された記録　（眞子 ゆかり）	9	22-29
洋書を追いかけて（前編）　帝国図書館時代、洋書はどのように集められたか　（齋藤 ひさ子、辻 佑果、曽木 颯太朗）	10	5-15
洋書を追いかけて（後編）　サムライ・帝国図書館・神秘主義：森有礼、畠山義成、鮫島尚信と新生兄弟会　（御幡 真人）	11	5-14
憲政資料室の新規公開資料から	12	6-13



凡例

憲政資料室の新規公開資料から	12	6-13
記事タイトル	掲載号（月）	掲載ページ数

今月の一冊

『省亭花鳥画譜』：激動の時代を駆け抜けた江戸の絵師	（瀧澤 和子）	1	3-7
お殿様のパイプオルガン：『南葵文庫附属御大礼奉祝紀念館大風琴』	（工藤 哲朗）	2	1-5
『荏土自慢名産杖』：江戸名物のオールスター合戦	（鈴木 加成太）	3	1-4
『ちゑのあけぼの』：文明開化の気風あふれる児童雑誌	（久保 智史）	4	1-5
『波斯神話』：若き日のアララギ派歌人とイランの英雄叙事詩	（緒方 佑衣）	5/6	1-5
ARTISTIC JAPAN / 芸術の日本：西欧で生まれた日本美術専門誌	（戸鹿野 陽子）	7/8	1-4
『鬼桃太郎』：若き紅葉の児童文学	（亀澤 明彦）	10	1-4
此の文明事業に協力せよ：国勢調査宣伝官報広告集	（西川 久司）	11	1-4
戦争中の日本人へのメッセージ：連合国軍の対日心理戦	（冨田 圭一郎）	12	1-5

本の森を歩く

（第24回）江戸時代の料理本：読んで楽しい、作って美味しい？（前編）	（伊藤 りさ）	1	8-15
（第25回）江戸時代の料理本：読んで楽しい、作って美味しい？（後編）	（伊藤 りさ）	2	6-11

日本図書館紀行

京都府立図書館	（平澤 大輔）	2	13-19
大阪府立中央図書館	（大塚 和美）	12	15-19

国立国会図書館で働いてます Season2

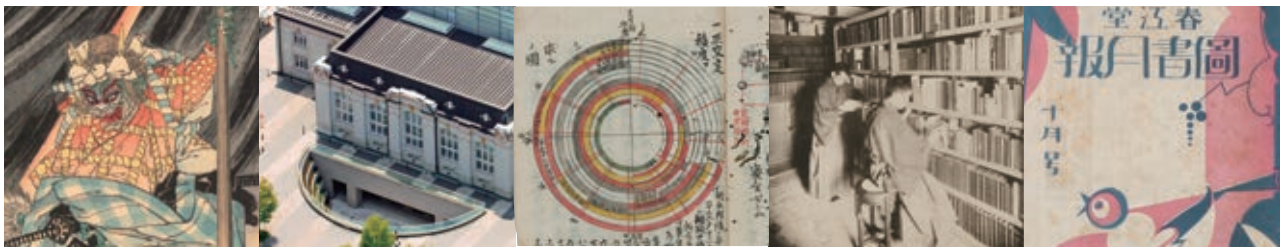
（no.1）島村 高平　総務部 管理課 施設運用係長		10	26-29
（no.2）佐藤 令　調査及び立法考査局 政治議会課		11	16-19
（no.3）伊東 祐介　収集書誌部 国内資料課 収集第二係長		12	20-22

国立国会図書館にない本

特価本目録は庶民読書の証言者（前編）	（小林 昌樹）	3	16-23
特価本目録は庶民読書の証言者（後編）	（小林 昌樹）	5/6	6-15
村にあった図書館の蔵書目録	（鈴木 宏宗）	11	21-30

本をまもる 保存・修復の道具

①切る、折る		7/8	16-22
②塗る、はる		10	17-24



あの人の蔵書

（第4回）白井文庫	（豊田 さおり）	5/6	24-29
（第5回）キシ・コレクション、ヨシオ・キシ及びアイリーン・ヤーリン・スンコレクション	（松田 恵里）	7/8	6-9

本屋にない本

南の島の家づくり：東南アジア島嶼部の建築と生活	（山﨑 優里亜）	1	22
濱田徳海旧蔵敦煌文書コレクション目録	（福林 靖博）	2	24
平成30年7月豪雨災害（広島県）体験談集	（山上 慶）	3	25
全国知事会七十年史	（山本 健太郎）	4	29
ごめんください、足尾のこと教えてください！：地域おこし協力隊による聞き取り抜粋集　その2（2015）	（大島 岳）	5/6	16
太宰治三鷹とともに：太宰治没後70年　平成30年度特別展	（大森 穂乃香）	7/8	23
新宿風景 2	（根来 南）	9	31
飛脚問屋嶋屋佐右衛門日記の世界	（横山 浩貴）	10	25
北極海航路ハンドブック	（金子 捺美）	11	20
LOVE and ...：MY MARGARET EXHIBITION VISUAL BOOK　MARGARET 50th ANNIVERSARY　わたしのマーガレット展 公式図録	（児玉 安奈）	12	23

館内スコープ

この文章、どこの言葉？	1	21
世界の立法動向ウォッチ	2	12
関西館書庫ツアー with コロナ	3	24
答えは本の中に	4	24
タイムスリップ1998-2018	5/6	22-23
紙よりも時代に取り残される？　電子資料	7/8	15
全体を巡り、支えています	9	30
今日も広報誌でふるさとへ	10	16
今を記録し、未来に伝える	11	15
近づいたり離れたり	12	14

バックナンバーは
PDFでもよめるよ

https://www.ndl.go.jp/jp/publication/geppo/

冊子版のご購入については、公益社団法人 日本図書館協会へお問い合わせください。バックナンバーも取り扱っています。
〒104-0033　東京都中央区新川 1-11-14　電話　03（3523）0812（販売）

12

NATIONAL DIET LIBRARY MONTHLY BULLETIN 2021.12

NO.728
DECEMBER
2021

CONTENTS

01 <Book of the month - from NDL collections>
Message for wartime Japanese: Allied psychological warfare against Japan

06 Materials newly available in the Modern Japanese Political History Materials Room

15 Travel writing on Japanese libraries
Osaka Prefectural Central Library

20 Working at the NDL, Season 2 Episode 3

14 <Tidbits of information on NDL>
Seeing NDL activities from up close and far away

23 <Books not commercially available>
LOVE and ...

24 <NDL Topics>

25 Annual index to the National Diet Library Monthly Bulletin, Nos. 717–728

国立国会図書館月報

発行所　国立国会図書館
編集責任者　松浦　茂

〒100-8924　東京都千代田区永田町1-10-1
電話　03（3581）2331（代表）
FAX　03（3597）5617
E-mail　geppo@ndl.go.jp
https://www.ndl.go.jp/

令和3年12月号（No.728）
令和3年12月1日発行

印刷所　株式会社 丸井工文社

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。
本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当館総務部総務課にご連絡ください。
本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ（https://www.ndl.go.jp/）＞刊行物＞国立国会図書館月報でご覧いただけます。

表紙・本文　中性再生紙使用

ISSN 0027-9153

NATIONAL DIET LIBRARY MONTHLY BULLETIN

2021.12

国立国会図書館
National Diet Library, Japan

国立国会図書館

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。